

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

1 地域の現状

- (1) 高齢化率が30%を超えているが要介護認定率は低く、元気な高齢者が多い
- (2) 集合住宅では高齢者の単身世帯率が27%と区平均に比べ、非常に高い
- (3) 地域活動者の高齢化に伴い、世代交代が進んでいる
- (4) 介護事業所数が区内で最も多く、医療機関も多い。連携に協力的な医療機関が多い
- (5) 障がい者支援の施設、学校が多く、障がいのある転入者も増えているが現状として支援者が不足している
- (6) 外国にゆかりのある世帯が増えたが、コロナ禍において正確な情報を取得することが困難となっている

2 今後の方向性

- (1) 地域や区、関係機関・事業者等との連携を強化し、福祉保健課題の解決に向けて地域福祉保健計画を推進していきます。
- (2) 地域包括ケアシステムの推進に向けて取り組んでいきます。(認知症サポーター養成講座、地域ケア会議、介護予防・生活支援サービスの充実)
- (3) 「共助」の取組がさらに厚くなっていくために取り組んでいきます。(福祉ネットワーク)
- (4) ボランティア活動の担い手育成に向けて支援を進めます。
- (5) 高齢になっても、いつまでも健康で生活続けられるように支援を進めます。
- (6) 子どもや子育て中の家庭が、暮らしやすい明るい街づくりに努めます。
- (7) 障がい児・者を支えるボランティア育成と、交流を通じた心のバリアフリーに努めます。
- (8) 地域防災対策の必要性が高まっています。要援護者の支援するとともに、福祉避難所としての役割を果たしていきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域や関係機関と連携し、福祉保健課題の解決に向けて第4期地域福祉保健計画を推進していきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	築いてきた地域包括ケアシステムを更に発展させ、高齢の方も安心して生活できるよう地域での見守りや権利擁護に関する取組を進めます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	在宅医療と介護の連携の推進した取組として、病院とケアマネジャーとともに研修会の企画・開催を進めます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	介護予防・生活支援サービス総合事業「こもれびカフェ」において、要支援者等の利用が増えるよう、ケアマネジャーへの更なる周知を進めます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	住民の見守りの場として移動販売を活用し、地域全体で孤立解消に向け取り組んでいきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域の中で住民同士で助け合う共助の活動とし「福祉ネットワーク(助け合い活動)」を更に支援していきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	特別支援学校や障がい児者施設等も多い地域のため、誰もが参加しやすい街づくりを進めていきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

昨年度から引き続きコロナ禍に見舞われてましたが年度当初から事業を少しずつ再開していきましました。事業はオンラインなどを取り入れたり新しい形での取組を始めました。オンラインについては年齢層によっては難しいこともあり今後の課題となっています。地域の課題も8050問題やごみ屋敷問題が複合的に発生することで複数の機関との連携が必要になってきています。移動販売時を定点観測したところに個別の課題が発見され個別訪問を実施をしました。コロナ禍の影響は貸館団体やボランティア団体等にも大きく影響し、会員や参加者数が減少し、解散になった団体もありました。

区からのコメント

課題が複雑・多様化し、様々な職種が連携して支援しなければならないケースが増えています。各職種の強みを生かし区や関係機関と連携し対応できています。特に単身高齢者世帯が多いエリアでは、緊急対応が必要になるケースもありますが、必要に応じ訪問や関係機関への確認をし、迅速かつ丁寧に支援しています。また、ウォーキングやラジオ体操、移動販売など各種事業を上手く活用しながら、包括職員と生活支援Coと協力し、地域で気になる方の見守りも含め、予防的な関りもできています。

新型コロナの影響で会食や集まりの機会が減少する中でもイベントや事業が行えるよう色々な工夫をしていると思います。引き続きオンラインと対面とを併用し事業を実施することで、住民同士の支え合いにつなげてもらう事を期待しています。また福祉ネットワークのボランティア登録や活動における幅の広さも感じられましたが、今後制度の狭間となる部分への対応に複数機関と連携するよう心掛けてもらえればと思います。